



# もり 森林の風

特定非営利活動法人

森林の風

会長 蒲田 博

2012.10.4 発行

## 第13号

### だより

#### 本田技研工業(株)鈴鹿製作所 ◆ 第12回森林保全ボランティア ◆

今回は道づくり。といっても、これまで経験してきた総合力がとわれます。木を伐り倒し、枝を払い、丸太をちょうどいい長さに伐り、土留めにします。今回は若い現役世代の初参加が多く活気がありました。作っていただいた道＝土留めが土や種子の流出をとめ水源の森の一步となるんです。いい汗かいて「いいことしたな！」と感じていただければうれしいです。



← 入口  
.....  
F1の森の...  
.....  
↓ 山頂

本田さんがまる6年かけて育ててくださっている向井「F1の森」。  
毎年たくさんの方々を訪れます。  
夏休みの最後の最後、8月の27日には名古屋からチームウッディの小・中・高生約300名が、森林環境の未来を探検しにやってきました。



名古屋市教育委員会主催 ★ 環境未来探検隊 ★

森林施業 NPO法人  もり  
森林の風

連絡先/〒512-0933 三重県四日市市三滝台4丁目15-7 TEL059-321-7719 携帯電話090-9663-4088  
<http://www.morinokaze.info> \*詳しくは、ホームページまたは上記まで問合せください。

森や木のこと  
を伝える。

聞いて  
見て  
考える。

環境教育 From The Forest

これまで放置林を間伐し健全な森林を増やそうという思いで森林整備の実践活動を積んできた森林の風。その経験から伝えられることがある・・・。

今年は「元年」と言っていほど森林環境教育の場を多くいただいています。地震や台風、集中豪雨など自然災害による被害が増えているなか、一般の方にひろく森林の大切さを伝えていかなければならないという機運が高まっています。

冒頭の★環境未来探検隊★はこのような体験をしました

【清水】

目的地に向かうだけではありません。  
伝えたいことがたくさん。寄り道がいっぱい。



ひとりで黙々と掘る。

↑ ↓

協力して植える。



説明を熱心に聴く。  
聴いた通りのことをやってみる。  
お手本通りにいこうか？



「せーの！」  
「もうっかい！」  
「せーの！！」



「やったー！」



怖がるのかな？と思っていたらみんな「伐りたい！」  
そしてこの真剣なまなざし。腰も入っている。  
鋸をちゃんと水平にひいて・・・。うまい！

「絶対一番に僕に伐らせて！」

伐りたいなら実は後の方がいい。まず木を伐るところを見たこともノギリを持ったこともないから、なかなか伐れないのです。お手本を見せてイメージができるとすぐ伐れるようになります。(このくらいの太さなら10回もひけば伐れます。)そして2番手、3番手に伐る子は実に上手に伐ります。最初の子が苦労しているのと、お手本との違いを(自分ならうまくできる)とうずうずしながら真剣に見ているからです。ちょー真剣なのです。教室の中でもあんな表情を見られたら先生はとってもうれしいだろうなあ。

また、ある女の子はその日1日を、「夏休みの自由研究にしたい」とのことでした。  
地図を渡したのに、コースをたどりません。(地図のどのコースどの辺をあるいているの?)

いろんな話をしているのに、ただ歩いているだけです。(メモしなくていいの?)

カメラはカバンに入ったままです。(いつでもシャッターチャンスの用意を!)

そうこうしているうちに1日でフィールド研究の一步目をマスター。最後は、手際の良い取材記者のようになっていました。

企画・引率された先生方の「できる限りの体験をしてもらいたい」という思いは十分届いたと思われます。

9月15日

● 鈴鹿川源流を歩く ●

これも本田技研さんの「向井 F1の森」での森林体験活動です。集中豪雨の警報の影響で子どもたちは参加できず、大人中心となりました。ルートは環境未来体験隊と同じですが、イベントを減らしゆっくり歩きました。

ひとり受験を控えた高校生が参加。

「林学を学びたい」という話を聴いて、同じ班の大人みんなが、まるで次世代を引き継ぐ若者代表に話すように、熱い思いを語りかけました。森林を守っていくうえで、伝えるということも、チェーンソーを持って森林を整備することと同じくらい大切なことだと、私たちも学びました。



**報告 Report** 子どもたちに何をつたえるか — 出前授業での試み —

【井伊 From 横浜】

横浜市が主催する環境教育出前講座に応募したところ採用となり、自宅近くの小学校で出前授業をやることになった。できれば知識の伝達だけでなく子供たちの心に響く内容にしたかったので、授業のテーマは「私たちの水はどこからくるんだろう？」とした。普段当たり前のように使っている水の源をたどるとそれが、広大な森林が広がる山に行きつくこと。その山を覆う森林は水を育み土砂流出を防ぐ働きをしてくれるが、いまその森林が手入れ不足とシカの食害で荒廃が進んでいるという悩みを抱えていること。その悩みに最前線で対処しているのが林業の仕事・・・という話の展開にした。神奈川県の場合、水源といえば丹沢となるので「皆さんが飲んでる水はあの山から来てるんだよ」という話は子供たちに極めて明快に伝わるようだ。



「そんなに山が荒れたらマズイじゃん！」「シカをどこかに移す方法はないんですか」「山の仕事は大変そうだけど頑張っしてほしい！」・・・子どもたちからの精一杯の質問や発言を聞けば、当然こちらも真剣に答えることになる。自分たちの地域の問題に関心を持つことは大切なことだ。こんな授業もあっていいだろう。

授業の後、陳列した山道具の前で大勢の子供たちに囲まれた。この無垢な子供たちの心に少しでも山への関心が残ってくれたら、と思いながら学校を後にした。



**出前授業を受けませんか** 森林の風より。

現在小学校への出前授業をいくつかうけております。たとえば11月22日は鈴鹿市庄野小学校の4年生のみなさんが竹ポットを作成します。当日までにどんぐりを拾っておいてもらい、その竹ポットで苗木を育てます。卒業するころにはどのくらい育っているでしょうね！

森や木のことを  
教わる。  
聞いて  
見て  
考える。

環境教育 From The Forest

前号で、川又林業の川又さん、三重県熊野商工環境事務所の水上さんに「災害復旧時に何ができるのか」教えていただきました。お答えを端的に表すなら「支援、支援の支援を続けることが大事」「できることをする」。

「できることをする」とは、「垣根を越えた交流を日常から積み重ねる」「普段からレベルの高い活動を行う」、私たちの場合でいえば「森林、林業の技術を知っていただく(⇔知る)」ことだということでした。

森林の風は、「まちのきこり人育成講座」が年度前半で終了すると施業の合間にあちこち出かけては学びます。このページは災害をテーマに

少しだけ紹介していますがホームページでは他にも報告、紹介していますのでぜひご覧ください。あとで実践してみることを前提に学ぶのは楽しいです。みなさんも一緒にいかがですか？



↑ 川又さん  
← 水上さん

昨年の台風12号で尾中さんを始め熊野・尾鷲の林業地帯でも大きな被害。復旧に携わった水上さんの撮影写真。



9月9日 語らいの里 嘶野

● 伊藤庸司さんを訪ねる ●



吉田本家山林部の山を案内していただく。林業を守りたくても木が売れなくてはどうにもならない。木や森林と私たちの暮らしとの関係をもっと多くの人に考えてもらいたい。そのためのプログラムを行っている。現場で一例を紹介いただいた。

9月9日

● 尾中鋼治さんを訪ねる ●

家族経営の多い熊野でも手入れが行き届かない人工林が増えた。最近「持続可能な」とよく言われるが、代々家族で森を管理し必要な時必要なだけ伐る「なすび伐り」こそ「持続可能な森林経営」ではないか。



日本の木一本、森林ひとつを守ることは世界の出来事とつながっている。林業経営が成り立つようコストを見直し苗木から、災害にも強い直根を守り育てている。そのことが百年、二百年(最終的には四百年)の木を育てることにつながる。

9月8日 速水林業

● 速水亨さんを訪ねる ●



7月8日

● 鋸谷茂さんを訪ねる ●



台風などの被害は、少々はあって当たり前で 50 年たつて風速 40mふけばいつ倒れてもおかしくない。針葉樹は成長につれて個体抵抗力はどんどん下がり、集団抵抗力が増えることはなく、回復力は幼齢期が強くだんだん弱まる。被害があれば、その起きたところを見ないと意味がない。もしかしたら被害を受ける受けないの違いは、施業の方法などなんらかの条件が違う「境界」かもしれない。有名林業地のマネをしてはいけなない。その土地柄にあった施業をしている。

## 報告 Report 「徳居(とくすい)里山の小径(こみち)」について

【高崎】

今回私の係わっている里山(鈴鹿市徳居町)がJTのNPO助成事業として認められ、森林の風の瀧口事務局長に看板を書いてもらった。その周辺を簡単に紹介してみたい。

1990年代、長野県の飯田市に8年ほど暮らしたが、この伊那谷での自然豊かな日々が私の森への関心の出発点になっているように思う。

その数年前に富山和子著『秘密の山の子供たち』の朗読がNHK『私の本棚』で取り上げられ、たまたま聴いていていた感銘を受けた記憶がある。

その舞台は 同じ伊那谷の七久保小学校であった。そこでは自然が先生で、担任の溝上先生はむしろファシリテータ(助言者)といった感じで小1から小3までの3年間で進行していく。内容は省くとして、私の里山活動の原点として、そうした子供のまなび、育ちの場としての里山というのは外せないように思っている。

そこへきてたまたまというか、「鈴鹿カルチャーステーション」(略称SCS)のメンバーの1人 中島君が子供活動に熱心で、里山を活動の舞台に加えたいと言ってきたのは、こちらとしては渡りに船だった。

で、『秘密の山の子供たち』にも出てくる「草刈りサンタさん」よろしく子供たちが安全に遊び学べるように、草刈りにいそしみ、木を切り、また木を植え、つつましく森のブランコを設置し、活動の進展とともにこちらでも成長進化しつつやっているとえようか。

ちなみに去年(H23年度)は延べ人数で子供120人、大人80人ほどが訪れた。

これからは、大人の成長?の場としてまた地域の人の憩える場としての描きも加えて、自然界のバランスの妙味(かく乱あり、復元あり、進化あり、棲みわけあり)そのままに体現していけたらと思うこのごろである。



書いてもらった看板



一番人気、森のブランコ

### (株)NTN

### 新入社員研修記念イベント植樹会



平成24年度 NTN 新入社員 58 名のみなさんが研修の記念イベントとして開催された植樹会です。ヤマモミジ 50 本、ヤマザクラ 50 本を植樹しました。

1 人でも多くまた多度山に来て、自分たちが植えた木々の成長を見届けながら、春は花、秋には紅葉を楽しんでいただければ幸いです。

## 森に来て ちょっとやって みませんか？

一句。

## 今後の活動予定(確定分)

日にち	場 所	内 容(学ぶこと)
10月11日	御在所頂上付近	種子の採取
10月13日	桑名市内	里山整備(チェーンソー使用)
10月14日	まなびの森	竹ポット苗木管理、
10月21日	こもれびの森	里山整備(チェーンソー使用)
10月25日	桑名市内	里山整備(チェーンソー使用)
10月27日	鈴鹿下大久保	竹林整備(チェーンソー使用)
10月28日	まなびの森	竹ポット苗木管理、
11月3日	レベルアップ研修会	プロの目立てを学ぼう(チェーンソー使用)
11月11日	四日市市	西山町植栽イベント
11月18日	こもれびの森	里山整備(チェーンソー使用)
11月25日	まなびの森	林内整備・薪づくり
12月8日	レベルアップ研修会	プロの林業家の仕事を知ろう
12月9日	まなびの森	林内整備
12月16日	こもれびの森	里山整備 (チェーンソー使用)
12月23日	まなびの森	林内整備

詳細案内はホームページをご覧ください。

## ◎事務局(瀧口)

四日市市三滝台 4-15-7

TEL & FAX: 059-321-7719

携帯: 090-9663-4088 (瀧口)

Mail: ktaki@m3.cty-net.ne.jp

または

## ◎担当(清水)

携帯: 090-3550-7041

Mail: shimizu.tamaki@gmail.com

・いずれも集合は8時30分です。参加費は保険代としてチェーンソー使用の日は1,000円、それ以外は500円です。  
 ・集合場所等はお問い合わせください。  
 ・天候等により予定変更する場合があります(中止を含む)。  
 ・参加申し込みは電話、FAX、メールで瀧口、清水まで。  
 ・これまでに参加経験がある方は参加の旨のみ連絡いただければ結構です。



## 編集後記

「森林施業NPO法人 森林の風」も法人化してもうすぐ8年目に入ろうとしています。発足当初と比べて活動内容も多岐に渡るようになってきたと思います。(私は発足時には会員にはなっていませんでした)。また国や県、市町の予算なども使い道が大きく変化していると感じます。「水源の森を守る」をスローガンに、多様な要望にも応えられるようより一層、活動に邁進していきます。認定NPOに関連して賛助会員も募集中です。賛同していただける方は表紙の連絡先までよろしくお願いいたします。

【編集係…裏川、清水】